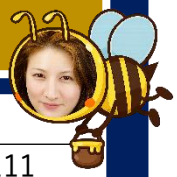
例会日 2026.10.13　No.1852

三条北ロータリークラブ
WEEKLY REPORT：週報

No.11

オラインカ・ハキーム・ババロラ RI 会長
「持続可能なインパクトを生み出そう」
～CREATE LASTING IMPACT～

第 2560 地区：富山　洋 ガバナー　「ロータリーで人生をより充実させよう」
三条北 RC：齋藤孝之輔 会長　「つながりを力に、未来へつなぐ」
～人と地域と、自分を豊かに～



会長：齋藤孝之輔　幹事：野崎喜嗣　SAA　大橋桂子
例会日：火曜日　12：30～13：30　例会場：三条ロイヤルホテル　TEL　0256-34-8111

◆本日の行事：「富山ガバナー公式訪問」
◆本日の出席：４２名中２５名（内記帳５名）
◆先々回の出席率：４２名中３３名 76.74%
（前年同期 80.85%）
◆本日のゲスト：
RI 第 2560 地区
ガバナー　富山　洋　様（雪国魚沼 RC）
第４分区ガバナー補佐
長澤 敬一 様（加茂 RC）
地区幹事　井口　司　様（雪国魚沼 RC）

◆本日の記帳(敬称略)：
三　条 RC　丸山行彦
三条南 RC　平松修之、星野健司
三条東 RC　長谷川恵慈、栗山正男

◆先週のメークアップ(敬称略)：
9/8 三条 RC　石川友意、小林伸行

会長挨拶：佐々木朋子 会長(見附 RC)

皆さんこんにちは。本年度見附ロータリークラブ会長を務めさせていただいております佐々木と申します。本日は富山ガバナーをお招きすることができまして、大変嬉しく思っております。お忙しい中お越しいただきましたことに心より感謝申し上げます。本日ご指導いただき多くを学び、今後のロータリー活動に努めてまいりたいと思っております。

見附クラブ初の女性会長で、初の合同例会の設営ということで至らないことが多々あるかと思いますがご容赦いただけると大変ありがたいです。本日はよろしくお願い申し上げます。

タイムスケジュール

9：45	懇談会受付開始
10：30	グループ懇談会（各クラブ 10 分）
11：00	バス集合　三条ロイヤルホテル
11：20	バス到着
11：40	全員集合
11：45	グループ懇談会終了
11：55	ガバナー入場
12：00	食事
12：30	開会点鐘（齋藤会長・三条北 RC）
12：35	国歌・ロータリーソング
12：40	代表会長挨拶(佐々木会長・見附 RC)
12：50	ガバナー講話
13：22	閉会点鐘（佐藤会長・三条東 RC）
13：30	写真撮影
14：05	ガバナーお見送り
14：20	バス到着　三条ロイヤルホテル

１０月１３日現在　各 BOX 累計
ロータリー財団 BOX　171,000 円、米山奨学 BOX　87,000 円、スマイル BOX　241,200 円

Rotary 持続可能なインパクトを生み出そう
事務局：三条市本町 3-5-25 三条ロイヤルホテル内
Tel 0256-35-7160 / Fax 0256-35-7488　HP：http://www.sanjo-nrc.org

本日の行事：「富山ガバナー公式訪問」グループ公式訪問　　会場：ホテルつるや

国際ロータリー第 2560 地区 ガバナー　富山　洋　様（雪国魚沼 RC）

皆さん、こんにちは。本日はお時間をいただき、本当にありがとうございます。

まず、合同でやらせていただいてるということでご了解いただいておりますが、私の思いとしては、これから現役で活躍される若い方たちがガバナーをされる際に、できるだけ時間的な負担が少なくなるとよいと思っております。私の同期ガバナーには 46 歳の方がいらっしゃり、女性ガバナーも 2 名いらっしゃいます。1 月に国際協議会でアメリカへ行きましたが、若い方が本当に多かったんです。多様なクラブが望ましいと思っておりまして、そのような地区にしていきたいと考えています。ご理解いただいたことに感謝いたします。

皆さんは、この写真をご覧になったことがありますか。これは『ロータリーの友』7 月号のガバナー紹介ページに掲載された写真です。何が言いたいかというと、ぜひ皆さんに『ロータリーの友』を読んでいただきたいということです。会員の義務でもございますし、とても内容の濃い雑誌です。会長にとっては卓話のネタもたくさんあります。これさえ読んでいれば 1 か月大丈夫です。ぜひ活用していただきたいと思います。

例えば 10 月号では、「99.9%と 100%の違い」について取り上げています。なるほどと思う内容があります。また、2 ページ目にはロータリー財団管理委員長のジェニファー・ジョーンズさんのメッセージがあります。こちらも大変深い内容です。ぜひご覧ください。身近な話ですと、「クラブの居心地を良くするための三つの秘訣」に“愛されるシニア会員”“心のコップが溢れる前に”などロータリーの魅力を実感しようと書いてあります。ぜひ読んでください。

次に、地区のゴルフ大会に参加していただき、ありがとうございました。雨の中プレーしていただき、大変ありがとうございました。この看板のモデルは、実は私です。翌日は私どもの第 6 分区の大会でしたが、こちらは大変よい天気でした。申し訳ないと思いながら、結果発表は 8 日の地区大会懇親会の席で発表させていただきます。

1．2026-2027 年度メッセージ
・持続可能なインパクトを生み出そう

RI 会長のオラインカ・ハキーム・ババロラさんは、「インカさんと呼んでください」とおっしゃっていました。ナイジェリアの方で、大柄な方でした。お仕事は資源開発関係で、工学部を出られたそうです。

これは、私が国際協議会に参加した際、最初のラーニングで示された図です。「インパクトを実現させるための積み木」という考え方で、分かりやすいと思いましたので紹介します。

奉仕活動などを行う際、まずお金や物などの資源を投入します。これが「投入リソース」です。次に、プログラムを実施してすぐに分かる結果があります。例えば、研修を受けた人の数や、提供した物資の量などです。これは「アウトプット」と呼ばれるものです。その後に、活動によって生じる中期的な結果、対象者の態度や行動の変化などがあり、さらにその先に「インパクト」があります。

インパクトとは、活動によってもたらされた長期的で好ましい変化であり、その活動がなければ生じなかったと考えられる、測定可能な改善を指します。客観的な証拠があることも重要です。特に「測定可能である」という点が大切ですので、ぜひ心に留めていただきたいと思います。

「持続可能なインパクト」について、インカさんはアフリカでの母子の健康に関する事業を例に説明されていました。ロータリーがその事業への資源投入を終えた後も、関係者によって事業が続いていく、ということです。

日本では、米山奨学事業が例になるのではないでしょうか。私たちは一人の米山奨学生に定められた奨学金をお渡しします。例会に来ていただきます。その方たちは奨学期間を終えた後、母国に帰ったり、日本で就職したりします。全員が同じように活動するわけではないかもしれませんが、ロータリーの目的を実践していく方もいらっしゃるでしょう。私たちが資源を投入し終えた後も効果が続いていくことは、持続可能なインパクトと言えるのではないかと思います。皆さんの事業に

も同じような例があると思いますので、ぜひ実践していただきたいと思います。

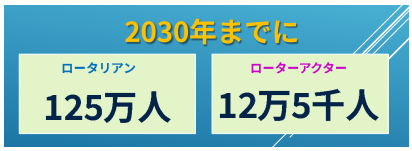
もう一つ、会長が話されていたのは、「より歓迎的な姿勢を」ということです。

より歓迎的な姿勢を

クラブの新しい入会者に対してよりオープンに歓迎しましょう

「例会や奉仕プロジェクトでの皆さんの態度ひとつで、誰かのロータリーのストーリーが始まるかもしれないし、終わるかもしれないのです」

新しい会員や、奉仕プロジェクトで一緒になったロータリアン以外の方にどう接するかによって、その方の奉仕への関心が生まれたり、ロータリーとのつながりが続いたりするかもしれません。反対に、その場で終わってしまうこともあるでしょう。この点については、退会防止の話でも触れたいと思います。



次に、数字の目標についてです。よく目にする目標ですが、2030 年までに会員 125 万人というものがあります。世界のロータリーには、クラブが約 3 万 6,000、会員が約 114 万 8,447 人いると説明されていました。日本には 2,150 クラブ、会員が 8 万 2,457 人いらっしゃるとのことでした。

ロータリーが始まって何年目か、ご存じでしょうか。私も聞いた話ですが、2026 年で 121 年目だそうです。では 2030 年は何年目でしょうか。125 年目になります。ですから「125 万人」という目標は覚えやすいと思います。ぜひ覚えておいていただければと思います。

・「ロータリーで人生をより充実させよう」

私の地区目標は、「ロータリーで人生をより充実させよう」というものです。

ロータリーの目的

1. **知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること**
2. **職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値ある者と認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること**
3. **ロータリアン一人一人が、個人として、また、事業及び社会生活において、日々奉仕の理念を実践すること**
4. **奉仕の理念で結ばれた職業人が世界的なネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること**

ロータリーの目的は、皆さんの現況報告書などにも最初の方に書かれています。その中で、私が大切だと思っているのが、職業上の高い倫理基準を保つということです。

ロータリークラブに入る方は、職業上の高い倫理基準を持ち、それを保っている方々だと思います。皆さんは、その姿勢を認められてロータリークラブに入っていらっしゃる。周りから「あなたは素晴らしい人ですね」「高い倫理基準を持っていますね」と認められることは、大変素晴らしい人の集まりだと思います。

もう一つ、「四つのテスト」があります。皆さんもよく唱和されていると思います。「真実かどうか」「みんなに公平か」「好意と友情を深めるか」「みんなのためになるかどうか」というものです。

以前、公式訪問の際に、「みんなに公平か」「みんなのためになるか」という部分について質問がありました。この「みんな」とは、英語では関係者全員を意味します。例えば、私に関係する人であれば、ここにいらっしゃる皆さん、自分の家族、自分が経営する会社の社員、地区スタッフなど、さまざまな方が含まれます。

では、その関係者の中に自分自身は入っているのでしょうか。もちろん、自分も関係者の一人です。そう考えると、「みんなに公平か」とは、自分を含めた関係者全員に公平かどうか、という意味だと思います。「みんなのためになるか」も、自分を含めて関係者に恩恵があるかどうかを考えることだと思います。

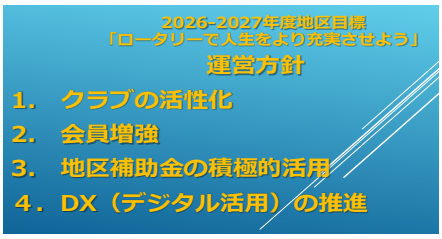
ある文章には、ロータリアンは他人の利益を優先すると書かれていました。しかし、自分の利益は必要ないのでしょうか。私たちは会社を経営し、適正な利益を得ながら奉仕活動にも取り組んでいます。利益がなければ事業は続きません。他人の利益を尊重することは大切ですが、自分の利益を犠牲にして行動するべきではないと、私は考えています。言い方を変えると Win-Win の関係になれるかということが判断基準だと思っています。

ここまでお話ししたのは、「ロータリアンとはどのような人か」ということです。地域や職場で「あの人はいい人だ」「あの人は信用できる人だ」と言われる方々の集まりであれば、素晴らしいと思います。

さらに、皆さんはいろいろな奉仕活動をされています。先ほど伺ったポリオ募金など、複数のクラブで取り組まれている素晴らしい事業もあります。そうした奉仕プログラムに参加し、行動することで、人生がより精神的に充実する。これを地区目標としました。

これまでお話ししたことは「持続可能なインパクト」とも関係しますが、私たちロータリアン自身が最大なインパクトであり、持続可能なインパクトそのものなのではないかと思います。誰かから活動資金をもらってロータリーを続けているのではなく、リソースは自分で作り、ロータリアンとして活動を続けています。ロータリーにいる事自体とてもいいことで、奉仕活動やクラブの活動を通してより充実していくのだと考えています。

２．クラブ活性化



先週、「DX を推進すると言っているが、どれくらい進んでいるのか分析したことがあるのか」という質問をいただきました。

各クラブで DX がどの程度進んでいるかについて、現時点ではまとまった分析結果はありません。また、何を DX とするかという点もあります。例会をオンラインでの出席も可能にするクラブが増えています。新発田城南ロータリークラブでは、例会を動画撮影して YouTube にアップし、それを視聴すると例会出席扱いになると伺いました。そのほか、Google などのツールを使う方法もあると思います。

ぜひ、そうした取り組みを進めていただきたいと思います。各クラブで「このようなことを行っている」という事例があれば、教えていただければと思います。

数値目標も掲げていますが、ここでは二つお話しします。

数値目標

1. 分区内会長・幹事会を 年３回以上 開催（リモート含む）
2. 会員数：2027 年 6 月末 2,027 名以上
   （2026 年７月 31 日 2,025 名）
   ※毎年 6 月は転勤等により退会が多い
   （30～40 名程度退会）
3. 女性会員比率 10%以上向上
4. 年次基金：1 人 150 ドル×会員数
5. ポリオプラス基金：1 人 30 ドル×会員数
6. 年次基金・ポリオプラス基金のゼロクラブをなくす
7. 恒久基金：ベネファクター新規認証者 10 名以上（1,000 ドル以上）
8. ポール・ハリス・フェロー：各クラブ １名以上（累計 1,000 ドル以上）
9. ポール・ハリス・ソサイエティ：新規認証者 10 名以上
10. 米山記念奨学会寄付：1 人 20,000 円×会員数
11. DDF 繰越し 0 ドル→自分達が寄付したお金
12. My ROTARY 登録率 80%以上、ラーニングセンター活用促進

一つは、先ほどの 2030 年までに会員 125 万人という目標に関連した、2560 地区の会員数の目標は 2,027 名と会員数の目標を設定しました。現在は 2,032 人なので、目標を達成していると思われるかもしれませんが、毎年 6 月末には 30～40 名程度が退会されます。そのため、目標を達成し続けるには、2,060 名程度ないと目標はクリアできません。おかげさまで RI から示されている目標値よりは当地区は上回っていますが、今後もこの程度のペースで会員増強を進めていただきたいと思います。ぜひご協力をお願いいたします。

もう一つは、My Rotary の登録率 80%以上です。ラーニングセンターを活用していただきたいからです。

ラーニングセンターには勉強になる内容が多くあります。私も最初は面倒だと思い、ロータリーのためだけにここまで努力するのかと思っていました。しかし、利用していくうちに、会社の仕事にも役立つ内容があると感じました。例えば、ハラスメントに関するコースは会社にも当てはめられますし、リーダーシップについて学べる内容もあります。ぜひ活用してください。そのためにはアカウントが必要ですので、まずは登録をお願いします。ほかにも多くの情報や興味深い内容がありますので、ぜひご覧ください。

・みんながストーリーテラー

現在、「ストーリーテリング」のキャンペーンも行われています。奉仕活動を、心に響くストーリーとして皆さんに伝えようというものです。日本のロータリーのホームページに掲載されており、キャンペーンは 11 月までとのことです。ぜひ、皆さんも素敵なストーリーを作って応募してください。奉仕プログラム委員会からも説明があったと思います。

ストーリーづくりを AI が支援するコーナーも用意されています。ぜひご覧になり、活用していただきたいと思います。

良い例とそうでない例を紹介します。例えば、「今年度の奉仕活動として地域清掃を実施し、延べ参加者数は 240 名でした。また、寄付金総額は 50 万円となりました」というのは、数字を中心とした報告です。

一方、良い例としては、「昨年の春、川沿いの公園でゴミ袋 30 袋分のごみを拾いました。作業が終わった後、見ていた 80 代のおばあちゃんが『子どもの頃みたいにきれいになったね』と言ってくれました。その一言で、また来ようと思えました」というような伝え方です。人に伝えるときには、心に響く話の方が記憶に残ります。ぜひキャンペーンを活用してください。

・退会防止

次に、退会防止についてお話しします。皆さんは、退会しようと思ったことがありますか。私は退会しようと思ったことが何度もあります。それでも、なぜ今ここにいるのでしょうか。なぜ退会しなかったのでしょうか。ロータリークラブに残る理由があるはずです。

自分にとって何か良いことがある、居心地がよいなど、さまざまな理由があると思います。退会理由としてよく挙げられるのは「忙しいから」です。しかし、皆さんもずっと忙しいのではないでしょうか。忙しいから辞めるのであれば、最初から入会していなかったかもしれません。これは理

由づけにすぎない場合もあります。本当の理由は何なのか、ぜひ探ってください。

例会の中で、一人ぼっちになっている人はいませんか。先ほどお話しした「より歓迎的な姿勢」にもつながります。ぜひ声をかけてください。例会で一言も話さずに終わってしまうことがないよう、コミュニケーションを取っていただきたいと思います。

退会防止に関連して、田中さんという方が、お釈迦様の教えとして「人が生きていくうえで欠かしてはならない大切なものが三つある」と話されていました。人生における師、人生における教え、そして人生を共に語り合う友です。

お釈迦様の教え

人が生きていくうえで欠かしてはならない大切なものが「3 つ」あると仰っています。
それは、
① 人生における「師」
② 人生における「教え・生き方」
③ 人生をともに語りあえる「友」
と説諭されました。
＊ この 3 つは、すべて「ロータリーによって見つけられるもの」です。

人生における師には、先輩などがいます。人生における教えには、ロータリーの目的や理念があります。そして、人生を共に語り合う友もいます。この三つは、すべてロータリークラブの中にあるのではないでしょうか。まさにそのとおりだと思います。こうした欠かせないものがあるからこそ、皆さんはロータリーを辞めず、ロータリアンを続けていらっしゃるのではないかと思います。ぜひ活動を継続し、退会防止にも努めていただきたいと思います。

３．危機管理

・ハラスメントの防止

次に、ハラスメントについてです。ハラスメントとは何か、判断が難しい場合もあると思います。

ロータリーは、いかなる形のハラスメントもない環境を維持することに力を注いでいる。
ハラスメントとは大まかに定義すると、
個人またはグループを、あらゆる特性（年齢、民族、人種、肌の色、能力、宗教、社会経済的地位、文化、性別、性的指向、または性自認）に基づいて、言葉であれ身体的であれ、中傷、侮辱、または攻撃する言動を指す。

男性でも女性でも、ハラスメントではないかと思うような経験があるかもしれません。同じことをしても、ハラスメントになる場合とならない場合があります。その違いには普段の良好な関係性も関わっていると思います。普段からお互いを理解していれば、分かり合えることもあるでしょう。まずは日頃の付き合いが大切です。初めて会う人にいきなりハグするのではなく、関係性ができてからにしていただきたいと思います。

ハラスメントが起きてしまったら

・身の安全が脅かされていると感じたら、当事者と距離を置き、警察に相談する
・クラブ理事会、地区リーダー、ゾーンリーダーなど適切な人に伝える→危機管理委員会
・国際ロータリーに報告する
地区事務所→日本ロータリー

ハラスメントが起きてしまったら青少年の場合すぐに地区へ連絡をして下さい。72 時間ルール

ここで紹介した例題も、ラーニングセンターから引用したものです。ぜひ My Rotary に登録し、ラーニングセンターを活用していただきたいと思います。

４．分区再編検討

次に、分区再編についてです。まずご理解いただきたいのは、地区から分区をこうして欲しい、ああして欲しい、分区を分けて欲しいというお願いをしているわけではないということです。クラブや分区に対して、何かを一方的にお願いするものでもありません。

ただ、地区の役目として、クラブや分区が困っていることがあれば、解決に向けて行動しなければなりません。そのため、10 月 2 日に会長・幹事の皆さんに集まっていただき、ヒアリングを行いました。11 クラブを担当する分区について、ガバナー補佐の負担が大きいのではないか、皆さんが実際にどう感じているのかを伺っています。

もし困っていないということであれば、何もないですし、例えばガバナー補佐に、1 クラブ当たり年 4 回の訪問をお願いしていることが負担になっているのであれば、改善する方法を考える必要があります。まずは皆さんの実情を伺っている段階です。地区から一方的に「こうしなさい」と決めるものではありません。

現在は、根拠に基づいた解決が求められています。測定可能なエビデンスをもとに分析する必要があるため、今回のヒアリングを行っています。この点をご理解いただきたいと思います。

５．ロータリー財団の財務 他

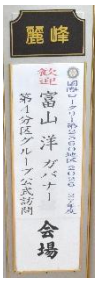
次に、ロータリー財団についてです。「私たちの寄付金は、きちんと使われているのか」という質問をよくいただきます。説明によると、寄付金の 87%がプログラム補助金などに充てられ、間接費は 13%とのことです。

財団の財務（単位：千ﾄﾞﾙ）	
収　入	463,010
寄付金	383,200
投資収益	74,917
その他	4,893
支　出	400,342
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ関連	347,675
運営費	52,667

チャリティーウォッチから高い評価を受けており、13%という間接費の割合は効率がよいと評価されている、という説明でした。ご安心いただければと思います。

最後に、地区大会についてお願いです。皆さんから多くの登録をいただき、ありがとうございます。おかげさまで損益分岐点を超え、赤字にならずに地区大会を開催できそうです。本当にありがとうございます。7日、8日の開催に向けて一生懸命準備を進めていますので、ぜひお越しください。紅葉もきれいですし、おいしいお酒やお米も用意してお待ちしています。よろしくお願いいたします。

最後に、こちらは私の写真です。皆さんのお手元にもあるかもしれません。私が所属する雪国ロータリークラブでの活動の一場面です。このとき、子どもたちのために練習着を作り、ロータリーのマークを付けました。子どもたちが参加するということは、保護者の方々も一緒に来られるということです。その事業に参加した方々に、ロータリークラブを知っているかどうかアンケートを取りました。100人中、何人がロータリークラブを知っていたと思いますか。1割くらいでしょうか。実際には6人でした。その程度の知名度なのです。

良いことを一生懸命していても、皆さんに知られていないということがあります。私自身も含めて、私たちの課題だと思います。公共イメージの向上にも取り組んでいただければと思います。

少し長くなりましたが、これで終わります。どうもありがとうございました。